

令和5年台風第13号（インニョン） に関する説明会

開催日時：令和5年9月7日11時00分 ～
開催場所：横浜地方気象台（Web開催）

※本資料はこの時点の見通しを示したものです。
今後気象台の発表する最新の気象情報に留意してください。

台風が神奈川県にかなり接近するおそれ。
8日は大雨となり、土砂災害警戒情報の発表のおそれ。
海上ではうねりを伴ってしける見込み。

○大雨

- ・今夜遅くからの暖かく湿った空気の流れ込みや台風本体の雨雲による大雨。
- ・雨のピークは8日朝から昼過ぎの時間帯で、非常に激しい雨が降る。
その後も台風が通過するまでは激しい雨が続く見込み。

土砂災害、河川の増水・氾濫に警戒、低い土地の浸水に注意・警戒

○高波

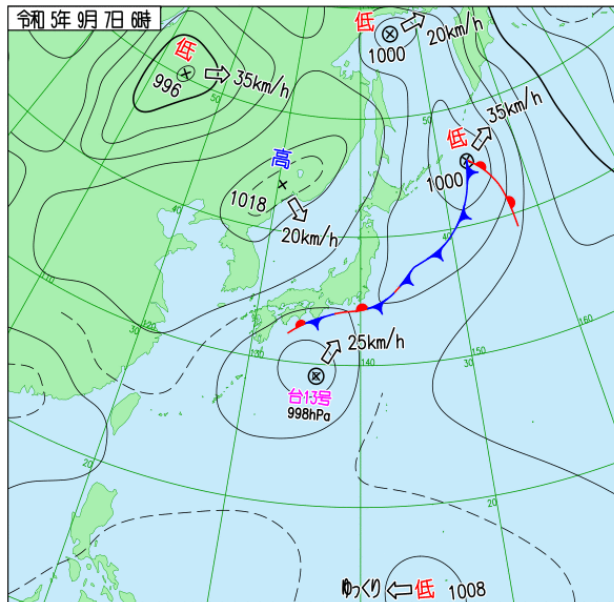
- ・台風の当県への接近に伴い、相模湾や三浦半島の東京湾側ではうねりを伴った高波となる。

三浦半島の東京湾側ではうねりを伴った高波に警戒

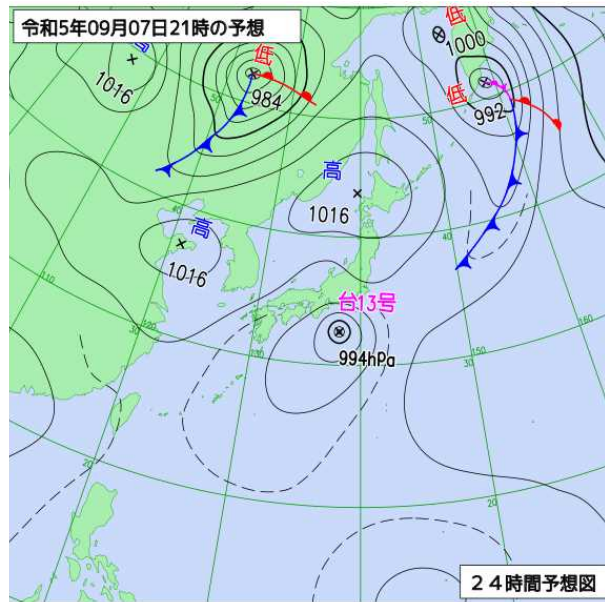
※台風の進路予想が安定していないため、今後の状況の変化に注意が必要です。
最新の気象情報に留意してください。

天気図 (実況・予想)

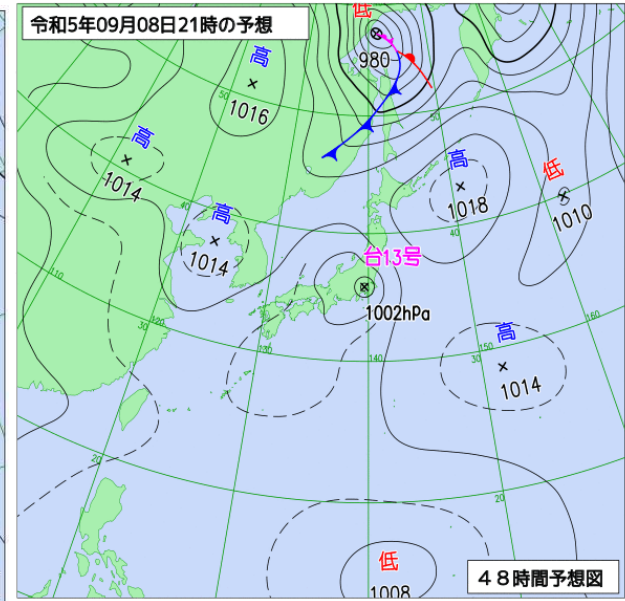
実況：7日6時



予想：7日21時



予想：8日21時

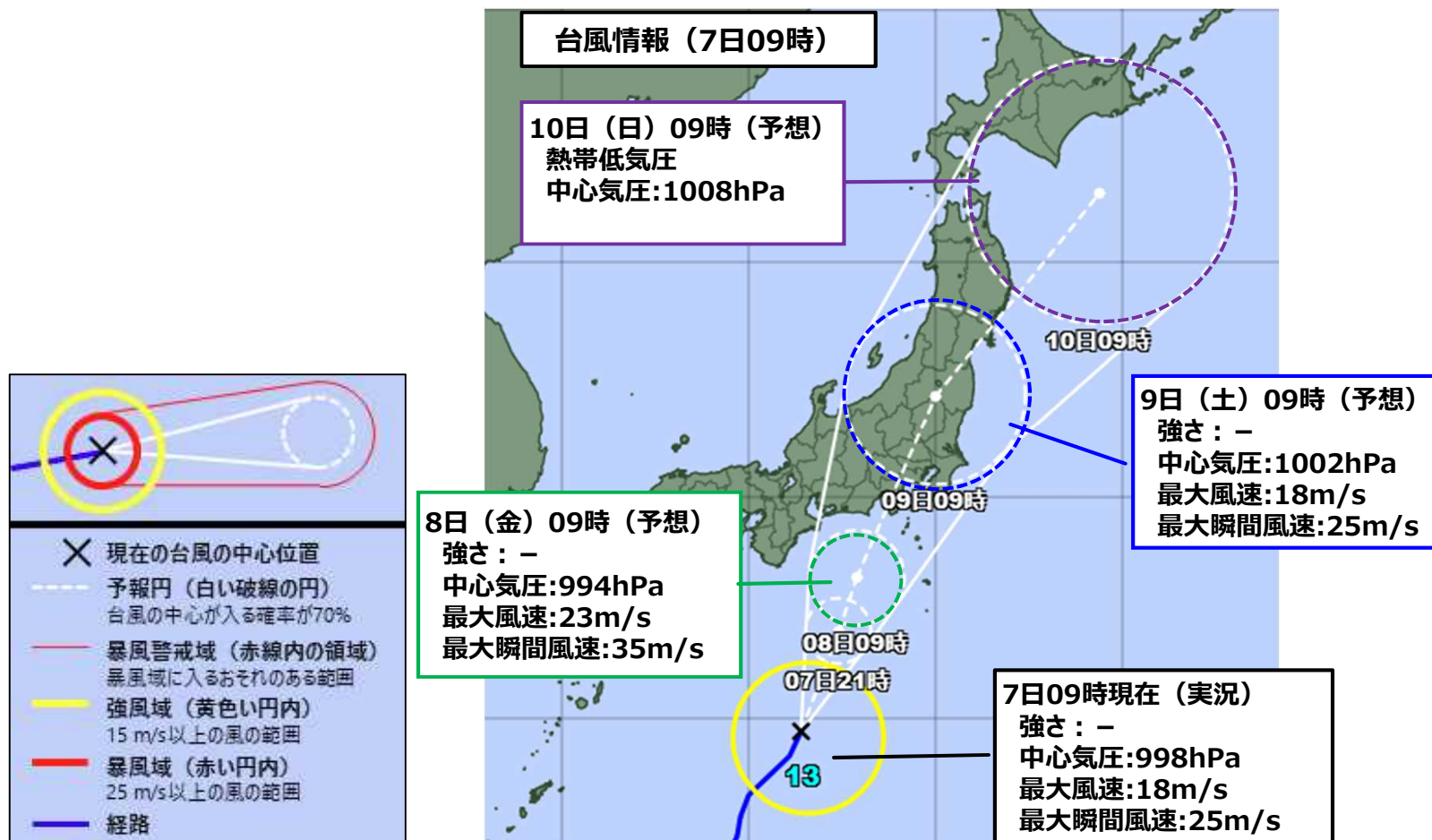


台風第13号の進路予想（7日09時時点）

3

<進路予想>

台風は、日本の南を発達しながら北北東に進み、8日には東海道沖を通過し、関東甲信地方に接近するおそれがあります。



防災事項・バーチャート

[防災事項]

- 警戒** : 大雨（土砂災害、河川の増水・氾濫）
 高波（東京湾三浦半島）
- 注意・警戒** : 低い土地の浸水、高波（相模湾）
- 注意** : 落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょう、強風

		7日					8日					9日						
		9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-6時	6-12時	12-18時	18-24時
		昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く				
台風最接近																		
大雨（浸水） （ミリ）	東部	0	0	0	1	10	15	30	40	40	40	40	40					
	西部	0	0	0	1	15	25	45	50	50	50	40	40					
大雨（土砂）	東部																	
	西部																	
雷	東部						竜巻	竜巻	竜巻	竜巻	竜巻	竜巻	竜巻					
	西部						竜巻	竜巻	竜巻	竜巻	竜巻	竜巻	竜巻					
強風 （メートル）	陸上	6 ↗	6 ←	6 ←	8 ←	8 ↗	12 ↗	12 ↓	15 ↗	15 ↓	15 ↗	15 ←	13 ←	13 ↑				
	海上	8 ↗	8 ←	8 ↗	10 ↗	12 ↗	15 ↗	15 ↗	18 ↗	18 ↗	18 ↗	18 ↗	15 ↑	15 ↑				
波浪 （メートル）	東京湾（横浜・川崎）	0.5	0.5	0.5	0.5	1	1.5	1.5	1.5	2	2	2	2	1.5				
	東京湾（三浦半島）	1	1	1	1.5	1.5	1.5	2	2.5	3	3	3	3	2.5				
	相模湾	1	1	1	1.5	1.5	2	2.5	3	4	4	4	4	3				

■ 警報級 ■ 注意報級

┌─┐ 雨雲の発達程度等によっては警報級となる可能性のある期間

※雷注意報については竜巻などの激しい突風のおそれがある時に「竜巻」と表示

予想1時間降水量（最大）
 8日 東部：40ミリ 西部：50ミリ

予想24時間降水量（多い所）
 8日12時まで：東部 100ミリ 西部 150ミリ
 9日12時まで：東部 50～100ミリ 西部 100～150ミリ

台風第13号に関する神奈川県気象情報（気象庁ホームページに掲載）

次回 7日17時頃 提供予定

以後、基本的に早朝と夕方、及び必要に応じて随時提供

今後の気象状況により予想が変わることがありますので、気象台が発表する注意報・警報などの情報に留意し、常に最新の気象情報を利用してください。

- ・ 台風情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=typhoon>

- ・ 神奈川県気象情報

https://www.jma.go.jp/bosai/information/#area_type=offices&area_code=140000&format=table

- ・ 神奈川県の警報・注意報・早期注意情報（警報級の可能性）

https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area_type=offices&area_code=140000&lang=ja

- ・ 雨雲の動き（高解像度降水ナウキャスト）

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/#zoom:8/lat:35.380093/lon:139.449463/colordepth:normal/elements:hrpns&slmcs>

- ・ キキクル（危険度分布）

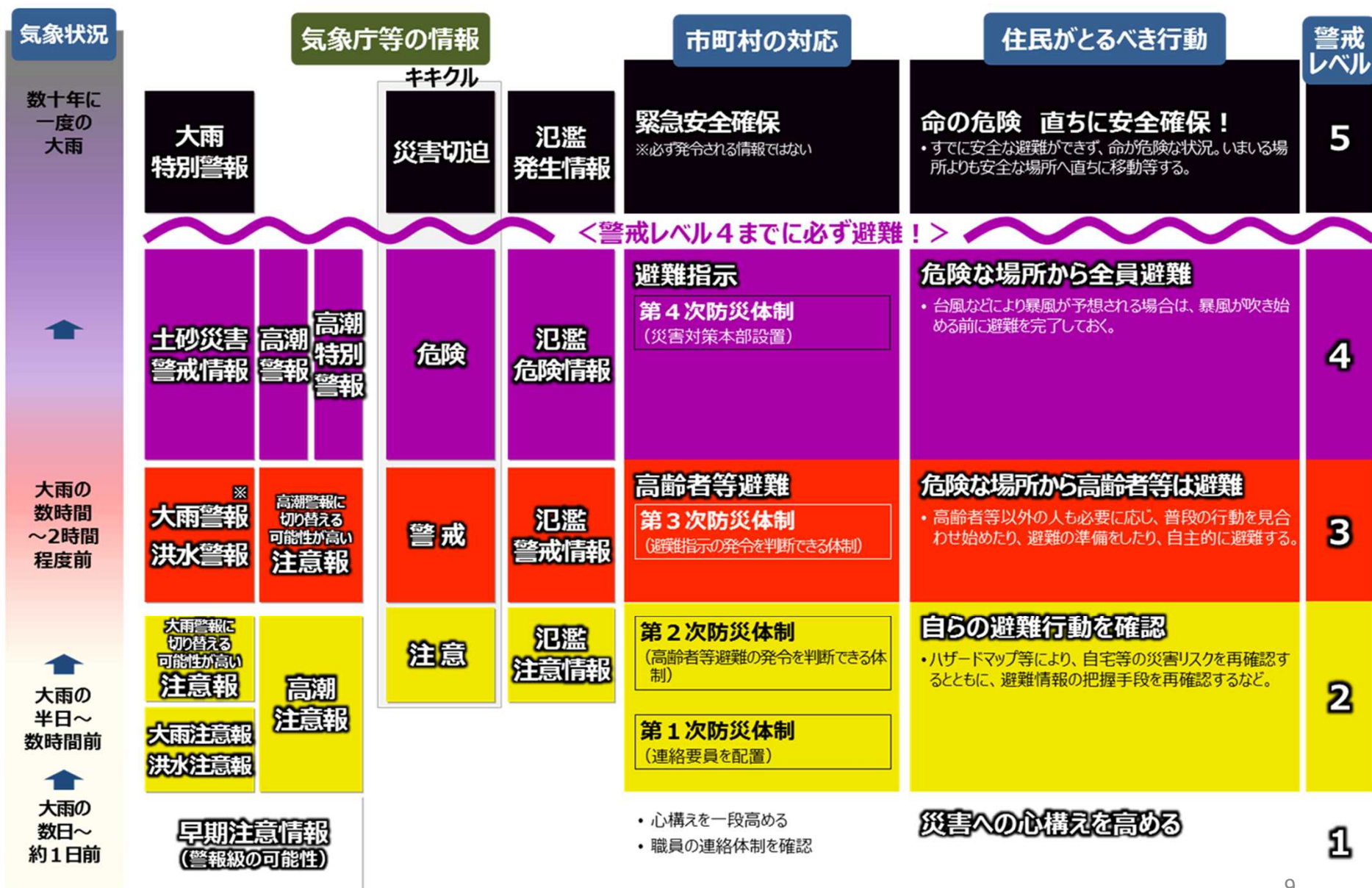
<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/zoom:8/lat:35.380093/lon:139.449463/colordepth:normal>

以下、参考資料

(参考) 住民の方への留意事項

- 大雨による土砂災害・洪水・低い土地の浸水をはじめ、暴風、高波、高潮など、自分のいる場所ではどのような災害が起こりやすいのかを予め確認し、明るいうちに安全な場所に移動するなど、雨や風が強まる前に早め早めの安全確保をお願いします。
- 屋外での作業や不要な外出は控え、海岸や増水した河川・用水路など危険な場所には絶対に近づかないようお願いします。
- 大雨や暴風が長時間続くと、災害の危険度がさらに高まり、影響が長時間続くことに留意してください。
- 今後の気象状況により予想が変わることがありますので、気象台が発表する注意報・警報などの情報に留意し、常に最新の気象情報を利用してください。

(参考) 段階的に発表される防災気象情報と対応する行動



※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3 (高齢者等避難) に相当します。

(参考) 大雨による災害の留意事項①

大雨が降ると…

一瞬にして多くの人命や財産を奪ってしまう
土砂災害が発生!

崖崩れや土石流の発生を確認して
から避難することはできない。



広島市の土石流による被害の様子
(平成26年8月20日気象庁撮影)

平成26年8月豪雨では、広島県広島市で土石流が発生し、人的被害をもたらした。

中小河川は**水位が急激に上昇!**

中小河川は、大雨が降ると短時間のうちに急激な水位上昇が起こりやすい。



福岡県朝倉市を流れる北川の様子
(出典：国土地理院ホームページ)

平成29年7月九州北部豪雨では、福岡県朝倉市の赤谷川、北川等で水位が短時間で上昇して氾濫が発生し、人的被害をもたらした。

大河川は**広範囲・長時間浸水!**

大河川で水が堤防を越えたり堤防が決壊したりすると、広範囲が長時間浸水するなど大きな被害となる。



茨城県常総市の浸水被害
(資料：国土交通省関東地方整備局)

平成27年9月関東・東北豪雨では、鬼怒川の氾濫で茨城県常総市の約3分の1の面積が浸水し、浸水が概ね解消するまでに10日を要した。

ハザードマップを参考に、
キキクルや指定河川洪水予報を活用し、

安全に避難できる早い段階で避難開始を判断することが重要!

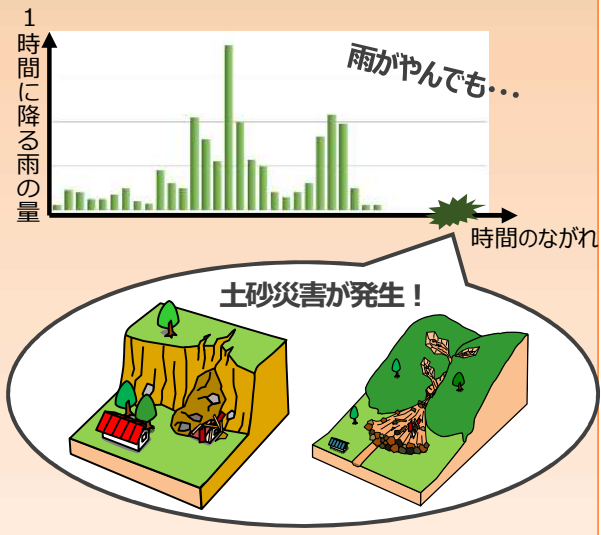


(参考) 大雨による災害の留意事項②

大雨がやんでも…

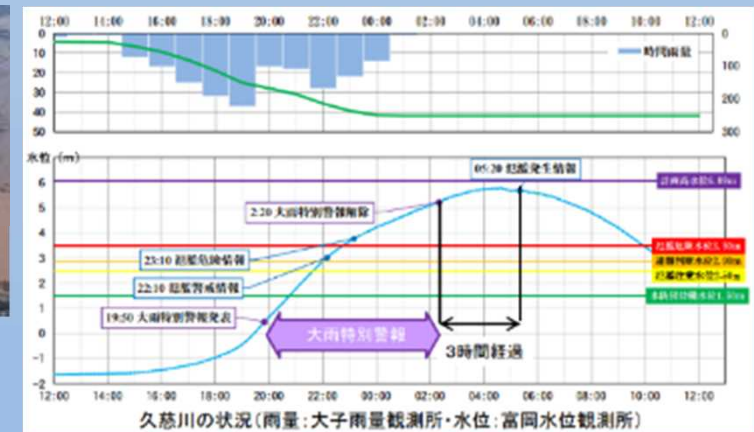
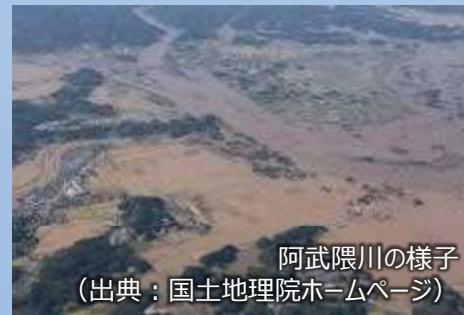
土砂災害の危険が継続！

雨が弱まったりやんだりしても、それまでに降った大雨により地盤が緩んだ状態が続き、土砂災害が発生することがある。



油断禁物！ 大川は時間差で増水

大川は上流の雨により下流で遅れて増水する。このため、大雨が止んだ後であっても、水位が上昇し氾濫することがある。



(出展：「第1回気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」資料に加筆)

令和元年東日本台風では、吉田川、阿武隈川、石田川、蛇尾川、都幾川、越刃川、久慈川、千曲川の7河川で大雨特別警報解除後に氾濫発生情報を発表している。

避難先から家に帰る前に

自治体の避難情報や気象情報を確認することが大切！

危険な状況ではなくなったことを確認してから家に帰りましょう。



(参考) 台風情報について

台風情報の内容

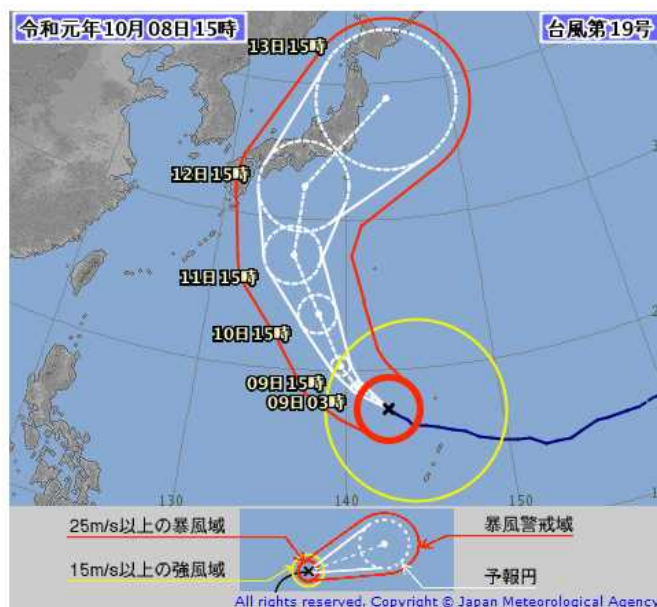
内容	発表時間	予報時間	発表要素
実況	0時、3時、6時、9時、12時、15時、18時、21時の約50分後 ^{※3}		中心位置、進行方向・速度、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風域、強風域
	毎正時の約50分後 ^{※1,3}		
1時間後推定 ^{※1}	毎正時の約50分後 ^{※1}		
1日（24時間）予報	0時、3時、6時、9時、12時、15時、18時、21時の約50分後 ^{※3}	12時間先 ^{※2} 、24時間先	予報円の中心・半径、進行方向・速度、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域
		24時間先まで3時間毎 ^{※1}	
5日（120時間）予報	3時、9時、15時、21時の約50分後 ^{※3}	5日先まで24時間毎	

※1 台風が日本に接近し、影響のおそれがある場合に発表

※2 台風の動きが遅い場合は省略

※3 発達する熱帯低気圧や台風が複数存在するときは約70～90分後になることがある

【過去の発表例】 台風情報（実況と5日先までの予報）



(参考) 雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～ 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		ワイパーを速くしても見づらい
30以上～ 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしてもぬれる		道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
50以上～ 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴォーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じず				

(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

(参考) 風の強さと吹き方

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその 時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	~50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平に なり、高速運転中では横風に 流される感覚を受ける。	種(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	~70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	~90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていなくて 立ってられない。 飛来物によって負傷するおそ れがある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始 める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。 固定されていないプレハブ小屋が移 動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	40
	25以上 30未満	~110km						
猛烈な風	30以上 35未満	~125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。 ブロック壁で倒壊するもの がある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50
	35以上 40未満	~140km					外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	
	40以上	140km~					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

(参考) 波の高さについて

波浪予報などで使われている波高（波の高さ）は、有義波高と呼ばれる波の高さです。これは、ある点を連続的に通過する波を観測したとき、波高を高い順に並べ直して全体の1/3までの波の高さを平均した値です。目視で観測される波高はほぼ有義波高に等しいと言われており、一般に波高と言う場合には有義波高を指しています。

同じような波の状態が続くとき、100波に1波は有義波高の1.5倍、1,000波に1波は2倍近い高波が出現します。また、確率としては小さいのですが、台風によるしけが長引くほど「三角波」「一発大波」などと呼ばれる巨大波が出現する危険性が増すため、十分な注意が必要です。

なお、気象庁では波の高さを説明する際には、4 mから6 mの波を「しけ」、6 mから9 mの波を「大しけ」、さらに9 mをこえる波を「猛烈なしけ」と呼んでいます。

波浪表

用語	波高(m)
おだやか	0 から1/10まで
おだやかなほう	1/10をこえ1/2まで
多少波がある	1/2をこえ1 1/4まで
波がやや高い	1 1/4をこえ2 1/2まで
波が高い	2 1/2をこえ4まで
しける	4をこえ6まで
大しけ	6をこえ9まで
猛烈にしける	9をこえる